

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100180		
法人名	医療法人社団 小羊会		
事業所名	グループホーム飯田		
所在地	山梨県甲府市		
自己評価作成日	令和 3年 10月 29日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会	
所在地	甲府市北新1-2-12	
聞き取り調査日	令和 3 年12 月 22 日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

馴染みのある地域の一員として 生活できるように支援するように心がけている。利用者様一人ひとりの生活暦・心身の状態や嗜好に合わせた援助に心がけている。また、四季折々の外出を通じ、季節の移り変わりや日常生活の変化を感じていただける生活の支援を行っている。元来 透析患者様の受け入れとしてGHを開所。現在、1名の利用者様を受け入れしている。透析の医師・看護師と密に情報を提供・共有して体調維持ができています。家族からも、信頼されている。食事・水分管理も行っている。看取りに関しても訪問医・訪問看護と連携をとり 看取り迄つなげている。コロナ渦になる前は地域との交流にも力を入れ、納涼会や避難訓練の際は地域の方の参加も呼び掛けていた。又地域の行事にも(新年互例会、自治会の祭り)積極的に参加していた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所のある地区は30戸ほどの小さな自治会である。管理者は自治会の会議等に積極的に参加して、行事への誘いや災害時等の協力体制の依頼などの情報発信をしている。管理者は職員の話を書く機会を必要に応じて設定し、聞いた内容を業務の改善に活かしている。常に職員間のまとまりに目配りしている。家族アンケートより、多くの家族が、事業所に対して高い評価と信頼を寄せているのが読み取れる。事業所の特徴では、認知症の方の特性として夕方になると帰宅願望が湧き出て不安定になるとのことから、2ユニットの利用者が集まって午後4時より5時までレクリエーション活動を行う。このことにより利用者はその後の夕食から就寝までの時間を落ち着いて過ごすことができる。グループホーム飯田ならではの取り組みとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場合やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20) (※窓越しの面会など距離をとった交流)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49) (※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム飯田

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1番館)	ユニット名(2番館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者第一主義」【地域の一住民としてともに生活し社会参加していく】の事業所理念を出勤時に必ず目に入るところに掲示し、理念を毎日確認し、仕事に望んでいる。	「利用者第一主義」【地域の一住民としてともに生活し社会参加していく】の事業所理念を出勤時に必ず目に入るところに掲示し、理念を毎日確認し、仕事に望んでいる。	事業所が掲げる4つの理念は、職員が出勤された際に必ず目に入るところに掲示し、確認して支援に入れるようになっている。新たに入職した職員は管理者によるオリエンテーションの中で、理念の研修を受け共有を図っている。コロナ禍以前は、法人本部(千葉県)にて新規入職者の研修を行っていたが、今は休止している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍になる前は地区のふれあいクラブ、新年互例会にも参加、地域の方と交流する機会を作っていた。お祭りの時は子供みこしが来所され、入居者と交流していた。現在では地区の民生委員などが来所、募金に協力してりしている。	コロナ禍になる前は地区のふれあいクラブ、新年互例会にも参加、地域の方と交流する機会を作っていた。お祭りの時は子供みこしが来所され、入居者と交流していた。現在では地区の民生委員などが来所、募金に協力してりしている。	コロナ禍以前は1月1日の朝、自治会の新年互例会に参加したり、地域のこども神輿が来所して利用者と交流したり、また、事業所が主催する防災訓練、地震体験、消火訓練に地域の方に参加していただいていた。自治会の総会では管理者が出席して、事業所を災害時の避難場所として利用できることを書面と口頭で伝えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍になる前は民生委員・愛育会の協力により、地区の老人会の皆様を招いて、講師による研修会の開催、工作等の交流会を実施していた。地域の方から認知症の方の対応や受け入れ施設などの相談にも乗っている。	コロナ禍になる前は民生委員・愛育会の協力により、地区の老人会の皆様を招いて、講師による研修会の開催、工作等の交流会を実施していた。地域の方から認知症の方の対応や受け入れ施設などの相談にも乗っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は書面での運営推進会議で毎月の行事報告、利用者や家族からの要望、意見などを出して頂いている。顔を合わせて話し合いをする場を設ける事ができない為、短時間の面会時などにご家族から要望など聞くように心がけている。	現在は書面での運営推進会議で毎月の行事報告、利用者や家族からの要望、意見などを出して頂いている。顔を合わせて話し合いをする場を設ける事ができない為、短時間の面会時などにご家族から要望など聞くように心がけている。	対面による運営推進会議が開けないため、事業所の状況は書面による報告を2か月に1度行っている。報告内容から出てきた要望に、面会の要望が多かった為、面会に替わり自由に電話のできる機会を多くしている。玄関前で5~10分程度の面会の機会を作っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所介護保険課に訪問した際や書類を提出に行く際や介護保険の更新時などは直接担当者としてコミュニケーションを図っている。	市役所介護保険課に訪問した際や書類を提出に行く際や介護保険の更新時などは直接担当者としてコミュニケーションを図っている。	行政の方針で書類などの提出書類は郵送となっており、対面での情報交換、情報共有は困難であった。ただ書類の修正点があった場合は、最小限の訪問時間であったが担当者とのコミュニケーションを図ることができた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年身体拘束の勉強会を行い、身体拘束にあたるケアとはどのような物が勉強している。外部の研修会にも参加し、職員個々に理解を深めている。また3か月に1度身体拘束廃止委員会を開催し、事故報告書についての再検討、身体拘束の必要性の有無の確認をしている。	毎年身体拘束の勉強会を行い、身体拘束にあたるケアとはどのような物が勉強している。外部の研修会にも参加し、職員個々に理解を深めている。また3か月に1度身体拘束廃止委員会を開催し、事故報告書についての再検討、身体拘束の必要性の有無の確認をしている。	事業所内に身体拘束廃止委員会を位置づけ、3か月に1回全職員が参加して実施し、内容の周知を図っている。今まで身体拘束が必要になった場面はないが、やむを得ず身体拘束が必要になった場合の対応として、家族の承諾はもとより、管理者、主治医との相談と承諾がマニュアルに明記されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年高齢者虐待の勉強会を行い、理解を深めている。また言葉による虐待(暴言、無視)には特に注意し、職員同士で不適切な言葉使いをしている時は注意合っている。また利用者の身体チェックも起床、入浴時に行い、アザの有無なども確認している。	毎年高齢者虐待の勉強会を行い、理解を深めている。また言葉による虐待(暴言、無視)には特に注意し、職員同士で不適切な言葉使いをしている時は注意合っている。また利用者の身体チェックも起床、入浴時に行い、アザの有無なども確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人研修や外部研修にて権利擁護、成年後見制度について理解を深めている。外部研修に参加して職員は施設会議にて報告し、情報の共有をしている。	法人研修や外部研修にて権利擁護、成年後見制度について理解を深めている。外部研修に参加して職員は施設会議にて報告し、情報の共有をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に至るまでに、ホームの考えや取り組みの内容をきちんと説明し、運営規定・重要事項等解り易く説明している。不明な点が無いよう理解して同意を得て、要望や疑問についても聞いている。	契約に至るまでに、ホームの考えや取り組みの内容をきちんと説明し、運営規定・重要事項等解り易く説明している。不明な点が無いよう理解して同意を得て、要望や疑問についても聞いている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム飯田

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1番館)	ユニット名(2番館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話の際などに家族、利用者から出た意見はその後の個別対応や行事の内容に反映させている。職員全員に周知、出来るように施設会議の時に報告したり、確認ノートに記入し、検討している。	面会時や電話の際などに家族、利用者から出た意見はその後の個別対応や行事の内容に反映させている。職員全員に周知、出来るように施設会議の時に報告したり、確認ノートに記入し、検討している。	10月に実施された家族へのアンケート結果からは事業所に対して絶大なる信頼を寄せているのが読み取れる。面会時間については、日中(日勤帯)で実施していたのを家族の要望を取り入れて、仕事帰りにも面会ができるよう時間の制限を緩和したり、利用者の居室で一緒に過ごせる機会を設けるようにした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は施設会議や年3回の面談時に職員からの意見や要望を聞く機会を設けている。面談内容は代表に報告している。職員間の和が乱れない様に努めている。	管理者は施設会議や年3回の面談時に職員からの意見や要望を聞く機会を設けている。面談内容は代表に報告している。職員間の和が乱れない様に努めている。	年に3回、管理者による面談を実施している。面談の内容については業務の改善、休憩時間に関することが主であり法人本部に上げなくてはならない内容は出てきていない。待遇についての不満もなく、法人の給与体系は職員のモチベーション向上の一助となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常勤職員、パート職員ともに年3回人事考課にて自己評価をする機会を作っている。自己評価に加え、管理者が評価する勤務姿勢や実績を賞与、給与に反映している。モチベーションアップにつながるよう職員個々に合わせた外部研修に参加するように薦めている。	常勤職員、パート職員ともに年3回人事考課にて自己評価をする機会を作っている。自己評価に加え、管理者が評価する勤務姿勢や実績を賞与、給与に反映している。モチベーションアップにつながるよう職員個々に合わせた外部研修に参加するように薦めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員各自に応じた資格取得も含めて、学びの場を推奨している。感染対策をしっかりとしたうえで外部研修にも参加を促している。内部勉強会も計画的に毎月実践している。	職員各自に応じた資格取得も含めて、学びの場を推奨している。感染対策をしっかりとしたうえで外部研修にも参加を促している。内部勉強会も計画的に毎月実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者はグループホーム協議会に会員登録しており、定期的にグループホーム協会主催の研修会や、介護福祉士会、介護支援専門員協会主催などの研修など案内状を職員の休憩所に置き、希望の研修に参加できるよう勤務調整も行っている。	代表者はグループホーム協議会に会員登録しており、定期的にグループホーム協会主催の研修会や、介護福祉士会、介護支援専門員協会主催などの研修など案内状を職員の休憩所に置き、希望の研修に参加できるよう勤務調整も行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅や介護サービス事業所、病院などに訪問し本人から趣味や好物、要望などの聞き取りを行っている。また当施設の説明も行い、不安の軽減に努めている。	入居前に自宅や介護サービス事業所、病院などに訪問し本人から趣味や好物、要望などの聞き取りを行っている。また当施設の説明も行い、不安の軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に御家族に施設に見学に来て頂き、要望、不安に思っている事等を聞き、ご本人にとって一番良いサービスを一緒に考える様にしております。	入居前に御家族に施設に見学に来て頂き、要望、不安に思っている事等を聞き、ご本人にとって一番良いサービスを一緒に考える様にしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族から聞き取った情報や要望をもとに何が必要か見極め、本人に必要なホーム外のサービスも含め対応している。	本人や家族から聞き取った情報や要望をもとに何が必要か見極め、本人に必要なホーム外のサービスも含め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と生活を共にし、喜びや悲しみも共有しながら、昔の知恵などを教えて頂きながら支え合い信頼関係を築いている。	職員は利用者と生活を共にし、喜びや悲しみも共有しながら、昔の知恵などを教えて頂きながら支え合い信頼関係を築いている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム飯田

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1番館)	ユニット名(2番館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の予定を案内したり、毎月の生活の様子を写真付きのお便りにつづり伝えている。面会時などにも日々の様子をお伝えし、対応に困っている事などは御家族と一緒に考え、ご本人にとって一番良い対応ができるように努めている。	行事の予定を案内したり、毎月の生活の様子を写真付きのお便りにつづり伝えている。面会時などにも日々の様子をお伝えし、対応に困っている事などは御家族と一緒に考え、ご本人にとって一番良い対応ができるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の前はご家族、友人など馴染みの方の面会について時間など特に制限を設けていなかった。現在は短時間の面会、電話の希望がある方は電話で話せる機会を作っている。	コロナ禍の前はご家族、友人など馴染みの方の面会について時間など特に制限を設けていなかった。現在は短時間の面会、電話の希望がある方は電話で話せる機会を作っている。	入居前の交友関係が継続されている利用者は3名ほどいる。友人と出かけた後、携帯電話でのやり取りがみられた。コロナ禍前は行きつけの美容院へ行ったり、通っていたマッサージュ師の方が事業所に来られていた。利用者一人ひとりの地域との関係性が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者と関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々に性格、生活習慣も違う為、食事の席や外出時のメンバーなどはその事を踏まえ構成している。利用者同士手をつなぎ、歩行の手助けしてくれたり、食事介助をしてくれたりと利用者同士の助け合いを大切にしている。	利用者個々に性格、生活習慣も違う為、食事の席や外出時のメンバーなどはその事を踏まえ構成している。利用者同士手をつなぎ、歩行の手助けしてくれたり、食事介助をしてくれたりと利用者同士の助け合いを大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もお手伝い出来ることは行い、入院中の方には見舞いを兼ね様子を確認し、主治医や看護師より状況を確認している。ホームに戻れない状況の時は受け入れ先の相談や情報の提供を行って経過を見守り、最後まで支援している。	契約終了後もお手伝い出来ることは行い、入院中の方には見舞いを兼ね様子を確認し、主治医や看護師より状況を確認している。ホームに戻れない状況の時は受け入れ先の相談や情報の提供を行って経過を見守り、最後まで支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からコミュニケーションをとり、馴染みの関係を築き、本人の思いや希望を聞く機会を作っている。意向確認が困難な利用者にはご家族からの情報や生活歴などから情報収集し、本人の意向に沿えるようにしている。	日頃からコミュニケーションをとり、馴染みの関係を築き、本人の思いや希望を聞く機会を作っている。意向確認が困難な利用者にはご家族からの情報や生活歴などから情報収集し、本人の意向に沿えるようにしている。	思いや意向を伺うのが困難な利用者は、家族の情報や生活歴からの情報と、毎日の表情の変化から判断して思いを汲み取るようにしている。職員は、利用者のその日の体調や室内環境等からくる表情の変化や仕草の観察に注意を払っている。	意思表示の困難な方が表出する表情や仕草を、MCS(メディカル・ケア・ステーション)の導入により利用者に関わる関係者がリアルタイムで情報の共有ができ、多くの関係者の所見を総合することにより、利用者の思いがより深掘りできるといわれています。一度検討してみてください。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際には本人や家族、介護サービス事業所、居宅支援事業所のケアマネージャーなどから生活歴や趣味などの情報を収集している。自宅での生活環境に近づけられる様に家具や馴染みのものも持参して頂き、生活環境を整えている。	入居の際には本人や家族、介護サービス事業所、居宅支援事業所のケアマネージャーなどから生活歴や趣味などの情報を収集している。自宅での生活環境に近づけられる様に家具や馴染みのものも持参して頂き、生活環境を整えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの生活スタイルを基本に考え、その方の出来る事を把握している。ケース記録に毎日の様子を記入し、職員間でも情報の共有に努めている。一日2回申し送りを行い、本人の心身の状態を職員全員が把握している。	今までの生活スタイルを基本に考え、その方の出来る事を把握している。ケース記録に毎日の様子を記入し、職員間でも情報の共有に努めている。一日3回申し送りを行い、本人の心身の状態を職員全員が把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度、もしくは状態に変化があった時などは担当職員がモニタリング、アセスメントを行い、家族からも意向を聞き、それをもとにカンファレンスを行っている。他の職員の意見も参考に介護計画の作成を行っている。	3ヶ月に1度、もしくは状態に変化があった時などは担当職員がモニタリング、アセスメントを行い、家族からも意向を聞き、それをもとにカンファレンスを行っている。他の職員の意見も参考に介護計画の作成を行っている。	担当の職員がモニタリング、アセスメントを行い、家族の情報をもとにケアプランを作成している。プランはケアマネが内容を確認し、施設会議を開いて全体で確認周知している。3ヶ月に1度の見直しをしているが、入退院や食事が摂れない、歩行が困難になったとき等、着取りの状態に近づいた際のプラン変更が多い。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを個々のケース記録用紙に印刷し、プランごとの職員にも分かりやすく実践しやすいようにしている。気づきやいつもと違う様子は詳細欄に記入し、職員間で共有し、実践や計画見直しにも生かしている。	ケアプランを個々のケース記録用紙に印刷し、プランごとの職員にも分かりやすく実践しやすいようにしている。気づきやいつもと違う様子は詳細欄に記入し、職員間で共有し、実践や計画見直しにも生かしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム飯田**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1番館)	ユニット名(2番館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態変化時や家族の希望、ニーズに臨機応変に対応している。本人、家族より希望があれば訪問マッサージなどの手配もしている。受診時の送迎などご家族の要望には柔軟に対応している。	状態変化時や家族の希望、ニーズに臨機応変に対応している。本人、家族より希望があれば訪問マッサージなどの手配もしている。受診時の送迎などご家族の要望には柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の前は自治会、愛育会など地域との交流も積極的に行っていた。新年互例会やお祭りなどにも参加し、地域の方、子供達とも交流していた。	コロナ禍の前は自治会、愛育会など地域との交流も積極的に行っていた。新年互例会やお祭りなどにも参加し、地域の方、子供達とも交流していた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診について基本、家族対応だが、受診困難な利用者やご家族が希望された際には往診医を紹介している。受診の際には同行される家族にメディカル表を渡し、状況を説明している。往診時には職員が必ず同席し、日常の様子を医師に伝えている	受診について基本、家族対応だが、受診困難な利用者やご家族が希望された際には往診医を紹介している。受診の際には同行される家族にメディカル表を渡し、状況を説明している。往診時には職員が必ず同席し、日常の様子を医師に伝えている	グループホームには嘱託医がいないため、かかりつけ医による往診を行う。以前は4名のかかりつけ医がいたが現在は1名となっている。事業所から1キロメートル以内に医療機関があり、緊急時の対応をお願いしている。外部の医療機関受診時に職員が付き添いを担ってくれていることが家族のアンケートより確認できた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常駐していない為、主治医の指示にて訪問看護を利用する事もあり、来所時には職員が必ず立ち合い、状況報告や指示をもらい、その後の対応に活かしている。	看護師が常駐していない為、主治医の指示にて訪問看護を利用する事もあり、来所時には職員が必ず立ち合い、状況報告や指示をもらい、その後の対応に活かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはサマリーを作成し、対応の仕方、注意点などを情報提供している。入院中も定期的に訪問し、本人様子を確認して、看護師より情報収集し、退院時に向け事前に準備をしている。	入院時にはサマリーを作成し、対応の仕方、注意点などを情報提供している。入院中も定期的に訪問し、本人様子を確認して、看護師より情報収集し、退院時に向け事前に準備をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合 本人・家族の意思を確認し終末期のあり方を、家族・医師・管理者を交え話し、事業所で出来る事を説明 今後の方向性を決め医療機関との連携・支援を行っている。	重度化した場合 本人・家族の意思を確認し終末期のあり方を、家族・医師・管理者を交え話し、事業所で出来る事を説明 今後の方向性を決め医療機関との連携・支援を行っている。	利用者が入居する際に看取りの説明をしている。しかし、利用者の状態の変化に応じて何回かに分けての説明も必要に応じて実施している。利用者が重度化、終末期を迎えた際は医師より家族に対して状況の説明をもらい、方向性を決めていく。コロナ禍の前には、看取りの際に家族の付き添いも行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当てや初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルに沿って対応できるようトレーニングしており、外部研修にも参加している。ADL設置 初期対応に利用できるように研修をしている。	緊急マニュアルに沿って対応できるようトレーニングしており、外部研修にも参加している。ADL設置 初期対応に利用できるように研修をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間を想定して年2回避難訓練を行っている。また万が一に備え利用者や職員、地域の方が避難してきたときの為、水や食料、毛布なども備蓄しており、食料の賞味期限を確認し定期的に入れ替えをしている。	日中、夜間を想定して年2回避難訓練を行っている。また万が一に備え利用者や職員、地域の方が避難してきたときの為、水や食料、毛布なども備蓄しており、食料の賞味期限を確認し定期的に入れ替えをしている。	事業所の立地する地域は、ハザードマップでは水害の想定地域となっている為、水害時は2階への避難を想定している。日中に夜間を想定した訓練を実施している。夜勤職員は2名なので他職員への連絡網体制の確認、近所の方による模擬支援を実際に行う。自治会には資料で夜間避難について協力を依頼し承諾を得ている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年1回プライバシーについて勉強会を行っている。トイレ時や入浴時等必ず扉を開ける際はノックをしたり、羞恥心に配慮した関わりをしている。不適切な言葉かけや対応など施設会議で話し合い、職員間で自分自身の対応を振り返る機会を作っている。	年1回プライバシーについて勉強会を行っている。トイレ時や入浴時等必ず扉を開ける際はノックをしたり、羞恥心に配慮した関わりをしている。不適切な言葉かけや対応など施設会議で話し合い、職員間で自分自身の対応を振り返る機会を作っている。	年に1度プライバシーについての勉強会を実施し、好ましくない言葉かけ等を検証している。また、言葉かけについてはマニュアルを作成し、周知共有している。介助については同性介助を基本の考えとしている。しかし、利用者の要望によっては異性介助も取り入れている。利用者による利用者へのプライバシー侵害については、行為に至る前に支援者側が察して未然に防いでいる。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム飯田

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1番館)	ユニット名(2番館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から利用者とのコミュニケーションを図り、利用者が思いを伝えやすい関係作りに努めている。また意思表示の難しい利用者には「はい」「いいえ」で答えられるよう質問を工夫し関わっている。	日頃から利用者とのコミュニケーションを図り、利用者が思いを伝えやすい関係作りに努めている。また意思表示の難しい利用者には「はい」「いいえ」で答えられるよう質問を工夫し関わっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、食事の時間など利用者の希望にそって対応している。入浴についても入りたい時に入浴できる様に入浴日、時間は決めずに午前午後の好きな時間に入れる様にしている。	起床、就寝、食事の時間など利用者の希望にそって対応している。入浴についても入りたい時に入浴できる様に入浴日、時間は決めずに午前午後の好きな時間に入れる様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの洋服や化粧品、アクセサリなど家族に用意していただいたり、好みの洋服などを購入できる様支援している。その人らしいおしゃれが出来る様に支援している。	本人の好みの洋服や化粧品、アクセサリなど家族に用意していただいたり、好みの洋服などを購入できる様支援している。その人らしいおしゃれが出来る様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前のおしぼり巻きや食後の下膳、洗い、拭きなど可能な限り利用者と一緒にやっている。おはぎづくりや柏餅づくりなどは利用者教へてもらいながら一緒に作っている。	食事前のおしぼり巻きや食後の下膳、洗い、拭きなど可能な限り利用者と一緒にやっている。おはぎづくりや柏餅づくりなどは利用者教へてもらいながら一緒に作っている。	食事や献立は外部委託で請けている。主食のごはんや汁物は事業所で調理して提供している。副菜は湯せんして常温で提供している。利用者はおしぼり巻、下膳、洗い、食器拭きを担う。おはぎや柏餅作り、稲荷ずし作りも一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量など毎食時チェック表に記入し、確認している。チェック表を確認しながら摂取量の少ない方には好みの物や食事以外での水分補給にて対応している。	食事量や水分量など毎食時チェック表に記入し、確認している。チェック表を確認しながら摂取量の少ない方には好みの物や食事以外での水分補給にて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。声掛けのみで出来る方には毎食後声掛けしている。不足箇所は職員が仕上げをしている。義歯を使用している利用者は夜間、ポリドントにて洗浄、除菌している。	毎食後口腔ケアを実施している。声掛けのみで出来る方には毎食後声掛けしている。不足箇所は職員が仕上げをしている。義歯を使用している利用者は夜間、ポリドントにて洗浄、除菌している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期誘導はせずに、排泄表を確認しながら一人一人に合った時間にトイレ誘導をしている。なるべくトイレで排泄できる様に座位が保てない方も職員が支え、トイレでの排泄を促している。	定期誘導はせずに、排泄表を確認しながら一人一人に合った時間にトイレ誘導をしている。なるべくトイレで排泄できる様に座位が保てない方も職員が支え、トイレでの排泄を促している。	排泄表には時間や排尿、排便、形状等を記録し体調の観察に心掛けている。一人ひとりにあったトイレ誘導や排泄の方法により、日中はオムツの必要がなくなり、夜間のみ使用となった利用者がある。また、オムツがとれたことにより、不快な表現が少なくなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の方には毎日ヨーグルトを提供し、水分もこまめに摂取して頂いている。毎日行っているフロア間の歩行や夕方の体操の時に身体を動かす機会を作り、便秘の解消に努めている。	便秘症の方には毎日ヨーグルトを提供し、水分もこまめに摂取して頂いている。毎日行っているフロア間の歩行や夕方の体操の時に身体を動かす機会を作り、便秘の解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそって支援をしている	入浴日や時間は決めずに、本人の入りたいタイミングで入浴できる様にしている。女性職員の介助を希望される方には女性職員が対応し、入浴を楽しんで頂けるように支援している。	入浴日や時間は決めずに、本人の入りたいタイミングで入浴できる様にしている。女性職員の介助を希望される方には女性職員が対応し、入浴を楽しんで頂けるように支援している。	入浴日は決めておらず、利用者の入りたいタイミングを重視して最低週に2日は入浴できるよう支援している。入浴は個別の入浴を基本としている。同性介助を基本とするが利用者の希望により、異性介助も取り入れ、楽しく入れる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣に合わせ、食後など休息を希望される方には休む時間を作っている。またその日の体調にあわせ、起床時間を調整している。昼夜逆転傾向の方には日中活動的に過ごせるよう関わる時間を多く作り、夜間の安眠に繋げている。	本人の生活習慣に合わせ、食後など休息を希望される方には休む時間を作っている。またその日の体調にあわせ、起床時間を調整している。昼夜逆転傾向の方には日中活動的に過ごせるよう関わる時間を多く作り、夜間の安眠に繋げている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム飯田**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1番館)	ユニット名(2番館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のメディカル表に服用している薬や、外用薬が記載されており処方変更があった時はメディカル表の訂正と個人のケース記録の特記、申し送りノートにも記入し職員は周知している。服用時には飲み込みまで確認している。	個々のメディカル表に服用している薬や、外用薬が記載されており処方変更があった時はメディカル表の訂正と個人のケース記録の特記、申し送りノートにも記入し職員は周知している。服用時には飲み込みまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きやごみ集め、洗濯たami等個々に役割がもてるように支援して、生活歴から趣味や楽しみ事などを情報収集し、自宅と同じように趣味活動ができるように環境を整えている。	食器拭きやごみ集め、洗濯たami等個々に役割がもてるように支援して、生活歴から趣味や楽しみ事などを情報収集し、自宅と同じように趣味活動ができるように環境を整えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	受診の際などに感染対策をしっかりと取ったうえで自宅でご家族と食事をとれる場を提供したり、密にならない屋外などの外出は今後、出来るように検討している。	受診の際などに感染対策をしっかりと取ったうえで自宅でご家族と食事をとれる場を提供したり、密にならない屋外などの外出は今後、出来るように検討している。	コロナ禍前は個別の買い物外出やグループによるお花見等季節を楽しむ外出を行ったり、家族の意向で利用者と一緒に墓参りにでかけていた。コロナ禍でのより楽しめる外出の在り方を検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で財布の管理をされている方には買い物支援時支払が出来るよう見守りを行っている。事務所で管理している方で支払いやお釣りの受け渡し可能な方は外出支援時見守りで支払いをされる方もいる。	ご自分で財布の管理をされている方には買い物支援時支払が出来るよう見守りを行っている。事務所で管理している方で支払いやお釣りの受け渡し可能な方は外出支援時見守りで支払いをされる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持たれている方は自由に家族や友達に電話し、会話を楽しんでいる。電話してほしいと希望される方には事務所の電話で家族に電話をかけるように支援し、事務所カウンターにも公衆電話を設置し、いつでも利用できる様にしている。	携帯電話を持たれている方は自由に家族や友達に電話し、会話を楽しんでいる。電話してほしいと希望される方には事務所の電話で家族に電話をかけるように支援し、事務所カウンターにも公衆電話を設置し、いつでも利用できる様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の移り変わりが感じ感じられるようにフロアには大きな窓があり、いつでも外を眺められるような環境となっている。季節の飾りや写真を掲示し、施設内においても四季を感じられるように努めている。室温にも気を付け、利用者に暑さ、寒さを確認しながら空調の調節をしている。	季節の移り変わりが感じ感じられるようにフロアには大きな窓があり、いつでも外を眺められるような環境となっている。季節の飾りや写真を掲示し、施設内においても四季を感じられるように努めている。室温にも気を付け、利用者に暑さ、寒さを確認しながら空調の調節をしている。	コロナの影響で外出に制限があるので、共有スペースの掲示板に季節を彩る飾りや写真を飾って雰囲気を感じられるよう努めている。また、サクラボを持ち込んで、みんなでサクラボ作りを企画して楽しんだ。室内の空調、温度湿度の管理を行い利用者の健康管理に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのテーブルには軽作業や趣味活動ができるように一人ひとりゆったりとしたスペースが確保してある。畳スペースもあり、疲れたときに休めるようにクッションや布団も用意している。	フロアのテーブルには軽作業や趣味活動ができるように一人ひとりゆったりとしたスペースが確保してある。畳スペースもあり、疲れたときに休めるようにクッションや布団も用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には本人が使い慣れた家具や馴染みの物を持って来ていただけるようお願いし、基本的には自由に居室を使っていたできるように配慮している。寝具もベッドに限定せずに布団で休みたい方には布団で対応している。	入居時には本人が使い慣れた家具や馴染みの物を持って来ていただけるようお願いし、基本的には自由に居室を使っていたできるように配慮している。寝具もベッドに限定せずに布団で休みたい方には布団で対応している。	入居時に使い慣れた家財は持ち込んでもらっている。仏壇や置物、入居前に使っていたベッドをそのまま使っている利用者もいる。また、犬が飼えなかったとのことで、犬の置物を置いている等、利用者一人ひとりの居室への思いが配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はすべてバリアフリーになっており、居室は量の部屋もあり、あえて段差のある部屋でADLの維持に役立っている。居室には氏名の他花の名前と絵で分かりやすく自分の部屋が分かるようになっている。	館内はすべてバリアフリーになっており、居室は量の部屋もあり、あえて段差のある部屋でADLの維持に役立っている。居室には氏名の他花の名前と絵で分かりやすく自分の部屋が分かるようになっている。		